九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

大阪産業大学デザイン工学部「英語(Reading & Writing)２」（１年生）授業実践報告

松本, 知子
神戸大学大学院人文学研究科 : 研究員

https://hdl.handle.net/2324/4842487

出版情報：オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.101-101, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

大阪産業大学デザイン工学部「英語(Reading & Writing)2」(1年生)授業実践報告

松本知子

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業の目的は、英文法を理解し、英文を正確に読めるようになることである。毎回の授業では、英文法の要点を説明した後、教員の解説を手掛かりに英文を正確に読み進めた。また、授業内課題として、受講者には、理解度を確認するための文法の問題を解くことを要求した。成績評価は、オンラインによる定期試験、小テスト、そして授業内・授業外課題で行った。オンライン授業の使用ツールは、ポータルシステム、学習管理システム web-class、大学から提供された Google アカウントである。授業配信については、Google Meet、Google ドライブ、web-classを使用することが要請された。

大学からの指示は2つあった。1つは、授業はリアルタイム配信を行い、さらに授業当日に web-class からリアルタイム配信を録画したもののオンデマンド配信を行うことであった。もう1つは、60 分間を目安として Google Meet でリアルタイム授業を行い、残りの 30 分間で授業内課題を受講者に課し、受講者は授業内に課題を提出することを標準とするであった。出欠確認については、Google Meet の出席レポートを使うことで、授業終了後に、参加者の名前、メールアドレス、最初に参加した日時と退出した日時が、出席レポートとして教員に送られてくるので、問題なく行うことができた。体調不良などのため、欠席の連絡を事前に教員が受けていた場合に限り、オンデマンド配信を視聴して、授業内課題が期日までに提出されれば出席として扱った。毎回の授業の予習として、受講者には、文法問題の小テストと授業で扱う英文の日本語の意味を書いてもらう授業外課題を課した。小テスト、授業外課題、そして前述の授業内課題は、すべて web-class に提出とした。定期試験については、web-class のテスト機能を利用して、語彙・文法問題を中心に出題した。

授業では、対面授業と同様に、受講者を順番に指名して、小テストの答え合わせを行い、英文の日本語の意味も言ってもらった。通信負荷を回避するために、カメラは常にオフとした。マイクについては、受講者の機器の関係で、チャットにマイクで話すことを打ち込みたいという要望があり、その要望を受け入れたところ、教員に対する質問、発言している受講者に対するコメント、あるいは一度に複数の受講者が発言をしたい時に、マイクを使用できる受講者がチャットを利用することが次第に増えてきた。理由を尋ねてみると、マイクで発言する時よりも、ストレスが少なく、気軽に何でも話せるとのことであった。勿論、マイクで発言することが基本であるが、様々な状況を踏まえた上で、チャットを使う利点の1つがここにあると思われる。また、対面授業の黒板に相当するものとして、大学から書画カメラが提供された。本授業では、Google Meet の画面共有機能を利用すると、画面を PowerPoint と教員の映像に2分割できるため、書画カメラを使わず、PowerPoint を黒板の代わりとした。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

リアルタイム授業配信の実施から、2つのことがわかった。1つは、受講機会確保のための配慮として、オンデマンド配信は必要である。もう1つは、残念ながら学習の習慣がきちんと身についていない受講者が、ルーティン化された小テストと課題を課された結果、予習・復習が意味することだけでなく、勉強の仕方や授業の受け方がわかるようになったことである。気が散る要素が多い対面授業とは異なり、リアルタイム授業配信にこそ、授業に集中できる授業形態の可能性がでてきた。今後は、ハイフレックス型授業ではなく、リアルタイム授業配信と対面授業の組み合わせの可能性を検証する必要がある。